

対談

便利にとっぷり浸かった人間は弱くなる

# “不便”の“益”を考える



不便に思ったことがないからなあ

いい加減に携帯持ってくださいよ



不便が忌み嫌われて久しい。だが、不便だからこそ、すなわち手間をかけるからこそ得られる喜びもあるのではないだろうか？ 効率追求の果てに、私たち人間は何を差し出しているのだろう。不便益を研究する川上浩司、平岡敏洋の対談を通して、不便さにまつわる利益の魅力を、再確認しよう。

撮影／塩川真悟 取材・文／伊藤史織(JQR編集部)



京都大学大学院情報学研究科助教  
平岡敏洋



京都大学デザイン学ユニット教授  
川上浩司

平岡 「川上先生は元々、人工知能が専門ですよね。それがなぜ“不便”の道に入ったのですか？」

川上 「僕が京大の助教授(当時)に着任したときに、片井先生(当時の研究室の教授)が『これからは不便益の時代や』と言われたのがキッカなんだよね」

平岡 「それで人工知能を捨てた!？」

川上 「いやいや、捨ててはいないけど、人の知能を機械で実現するより不便益の方が面白そうだ。そう思わない？」

平岡 「僕も学生時代は片井先生の元で人工知能の研究をしていたので、不便益という言葉がなかったときから、その感覚はありました。でも、その後は制御の研究をしていたんですけどね」

川上 「平岡先生は、一旦会社に入ってから大学に戻ってきた当初、クルマの自動運転の制御を研究していたんだっけ？」

平岡 「そうです」

川上 「それがどうして今のような研究にシフトしたの？」

平岡 「自動運転から次第に運転支援の研究に移ったんです。クルマが好きで僕にとって勝手に動くクルマなんてクルマじゃない!と思うところがあって(笑)。その研究をしていくうちに、単にシステムが情報を出すだけでは無駄で、一方、工夫し

て上手く情報を出ささえすれば、ドライバーが自ら考え手間をかけて、イイ運転をするようになるんじゃないか? と考えまして」

川上 「それってまさに不便益なシステムだね」

平岡 「運転支援システムによって、ドライバーが『安全運転やエコドライブが楽しい!』と感じるように促せないかと考えています。そのためは、まずはシステムを使ってみようと思わせる掴みが必要。さらに、飽きさせずに使い続けてもらうための仕掛けも」

川上 「使うのに手間がかかっても、そこに愛着が湧くことが大事だね」

### 昔が良かったというノスタルジーではない

平岡 「便利だけど害があるようなモノ・コトが世の中に増えているんじゃないか? というところが不便益研究の出発点です。だからといって、不便な昔の状態に戻ろう! という単なるノスタルジーではないことは強調したいですね。あくまでも、新たな不便を付け加えることで益を取り戻すことを狙っている。便利でイイものは否定しません」

川上 「いやいや、それは不便益“右派”の考えでしょ。不便益“左派”

としては、便利なものより不便なものを敢えて使い、そこに益を見出したい!」

平岡 「私は川上先生と違って、便利そのものは好きですから(笑)」

川上 「私たちが目指しているのは、世の中にすでに存在するシステムのどこをどのように不便にしたら、益が得られるのか? というシステムデザイン論を構築すること。最近、記号論理学を用いて不便益を体系化しようとしています。道半ばだけど、なかなか面白くなってきました」

### 多士済々が集い、不便益を研究し始めた

平岡 「最近、いろんな分野の人が不便益に興味を持ってきていますね」

川上 「工学だけでなく、建築や心理学、さらには仏教の方とかも」

平岡 「どれもユーザーという人がいて成り立つ分野ばかり」

川上 「でも、不便益のことを人間工学と同じようなものと思われるのは嫌だなあ。不便益の益は、数字を用いて表現できないものが多いからね」

平岡 「不便益の“益”は、モノを使う際に手間をかけたことで得られる嬉しさだったり、楽しさだったり、大半は主観的なものですから」

川上 「手間をかけてなんぼだよ、ということでは、教育の場面にも通じるところが多い。たとえば、苦勞して覚えた単語の方が後々まで覚えているもの」

平岡 「便利だと思えなくなる。まあ、それが便利って言うことだけど、考える力が確実に弱くなる」

川上 「不便だと、ではどうすればいいか? と能動的に考えざるをえない。試行錯誤することが、脳にいい刺激になるんです」

川上 「新しい不便益なシステムを考え出すというのは簡単なことではないよね。そこで、うちの学生が考案したのが、この不便益カード。12枚の不便益原理カードと8枚の益カードの2種類あります。不便益原理カードは、どういうふうシステムを不便にしたらいいかの指針。一方の益カードは、こんな益が得られるかも? ということを表しています」

平岡 「カードに描かれたピクトグラムがいい味を出していますよね。不便益のことを知らない人に説明する際にうまく表現できないもどかしさがいつもありましたから。このカードを使えばひと目で“不便益”をおおむね理解できるという点が素晴らしい」

川上 「この不便益カードの使い方としては、まずは不便益原理カードを